

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		二級建築士・計画				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	88	⑥ 単位数	3
⑦ 担当教員(代表)		近藤 幹		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅰ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。						
⑬ 授業の概要						
過去問題の徹底分析を行い、関連することからや応用的内容まで幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。						
⑭ 準備学習・事後学習						
單元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	学科Ⅰ_建築史（日本建築史、西洋建築史、近代・現代建築史）	17				
2	学科Ⅰ_環境原論（気候、伝熱・結露、色彩）	18				
3	学科Ⅰ_環境原論（日照・日射）	19				
4	学科Ⅰ_環境原論（採光・音響）	20				
5	学科Ⅰ_計画各論（地域計画、計画一般）	21				
6	学科Ⅰ_計画各論（住宅、商業建築）	22				
7	学科Ⅰ_計画各論（公共施設）	23				
8	学科Ⅰ_建築設備（空気調和設備）	24				
9	学科Ⅰ_建築設備（給水設備、給湯設備）	25				
10	学科Ⅰ_建築設備（排水・衛生設備）	26				
11	学科Ⅰ_建築設備（電気・照明設備、消火・防災設備）	27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	二級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅰ計画）	出版社：	日建学院	
		教材	配布資料	著者：		
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060101

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		二級建築士・法規				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	88	⑥ 単位数	3
⑦ 担当教員(代表)		内藤 義幸		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。						
⑬ 授業の概要						
過去問題の徹底分析を行い、関連することからや応用的内容まで幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。						
⑭ 準備学習・事後学習						
單元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	学科Ⅱ_総則（用語の定義）		17			
2	学科Ⅱ_総則（手続き等）		18			
3	学科Ⅱ_一般構造（採光、天井高、換気、シックハウス）		19			
4	学科Ⅱ_構造強度（構造方法、仕様規定）		20			
5	学科Ⅱ_防火関係（耐火建築物等、防火地域）		21			
6	学科Ⅱ_防火地域等（防火区画、内装制限、避難施設）		22			
7	学科Ⅱ_都市計画区域内等の制限（道路、用途地域）		23			
8	学科Ⅱ_都市計画区域内等の制限（建蔽率、容積率）		24			
9	学科Ⅱ_都市計画区域内等の制限（高さ制限）		25			
10	学科Ⅱ_都市計画区域内等の制限（日影規制、地区、街区、雑則）		26			
11	学科Ⅱ_その他法令（建築士法、建設業法、バリアフリー法、耐震改修、都市計画）		27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	二級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅱ計画）	出版社：	日建学院	
		教材	配布資料	著者：		
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060102

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		二級建築士・構造				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	88	⑥ 単位数	3
⑦ 担当教員(代表)		内藤 義幸		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。						
⑬ 授業の概要						
過去問題の徹底分析を行い、関連することからや応用的内容まで幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。						
⑭ 準備学習・事後学習						
單元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	学科Ⅲ_構造力学（力のつり合い、反力、静定構造物の応力）	17				
2	学科Ⅲ_構造力学（静定トラスの応力、断面性質）	18				
3	学科Ⅲ_構造力学（応力度、許容応力度）	19				
4	学科Ⅲ_建築材料（木材、コンクリート）	20				
5	学科Ⅲ_建築材料（鋼材、ガラス、石材等）	21				
6	学科Ⅲ_一般構造（荷重・外力、地盤・基礎構造）	22				
7	学科Ⅲ_一般構造（木構造）	23				
8	学科Ⅲ_一般構造（鉄筋コンクリート構造）	24				
9	学科Ⅲ_一般構造（鉄骨造）	25				
10	学科Ⅲ_一般構造（その他の構造）	26				
11	学科Ⅲ_一般構造（構造設計）	27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	二級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅲ計画）	出版社：	日建学院	
		教材	配布資料	著者：		
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060103

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		二級建築士・施工				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	88	⑥ 単位数	3
⑦ 担当教員(代表)		石橋 敦士		⑧ 実務経験		施工実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅳ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。						
⑬ 授業の概要						
過去問題の徹底分析を行い、関連することからや応用的内容まで幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。						
⑭ 準備学習・事後学習						
單元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	学科Ⅳ_工事契約（設計図書、仕様書、契約約款、施工計画、工程計画）	17				
2	学科Ⅳ_工事管理（安全衛生管理、材料管理、各種届出）	18				
3	学科Ⅳ_地盤調査・測量、仮設工事	19				
4	学科Ⅳ_土工事・基礎地業工事	20				
5	学科Ⅳ_鉄筋コンクリート工事（鉄筋工事、型枠工事）	21				
6	学科Ⅳ_鉄筋コンクリート工事（コンクリート工事、品質管理）	22				
7	学科Ⅳ_鉄骨工事	23				
8	学科Ⅳ_ブロック工事、木工事、防水工事、屋根工事	24				
9	学科Ⅳ_左官工事、タイル・張石工事	25				
10	学科Ⅳ_塗装工事、建具工事、ガラス工事	26				
11	学科Ⅳ_内装・断熱工事、改修工事、設備工事、用語・機械、積算	27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	二級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅳ計画）	出版社：	日建学院	
		教材	配布資料	著者：		
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060104

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		二級建築士・製図				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	330	⑥ 単位数	11
⑦ 担当教員(代表)		遠藤 忠俊		⑧ 実務経験	設計実務経験者	
⑨ 授業形態		実習		⑩ 授業の実施方法	対面授業	
⑪ 評価基準						
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
二級建築士設計製図課題に対する、計画手法を学びまた、作図技術を向上させ、実技試験合格を目差す。建築物を設計することで、建築士の責任意識を高め社会から歓迎される人柄を養い、即戦力として活躍出来る人材に育てる。						
⑬ 授業の概要						
製図の実習形式で、計画から作図の演習を行い、建築設計図の基本を認識し、模擬問題を通して設計課題製図に対する実技の修得をする。						
⑭ 準備学習・事後学習						
各授業で実践課題を課すので、復習を兼ねて期日まで2時間以上取り組むこと。						
⑮ 授業計画						
1	二級建築士設計課題図面 標準図（配置図兼1階平面図・2階平面図）の作成	17				
2	二級建築士設計課題図面 標準図（立面図・断面図）の作成	18				
3	二級建築士設計課題図面 標準図（矩計図・部分詳細図）の作成	19				
4	二級建築士設計課題図面 標準図（床伏せ図・小屋伏せ図）の作成	20				
5	二級建築士設計課題図面 設計課題①（エスキスから作図まで）	21				
6	二級建築士設計課題図面 設計課題②（エスキスから作図まで）	22				
7	二級建築士設計課題図面 設計課題③（エスキスから作図まで）	23				
8	二級建築士設計課題図面 設計課題④（エスキスから作図まで）	24				
9	二級建築士設計課題図面 設計課題⑤（エスキスから作図まで）	25				
10	二級建築士設計課題図面 設計課題⑥（エスキスから作図まで）	26				
11	二級建築士設計課題図面 模擬試験	27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	二級建築士 設計製図 基礎	出版社：	日建学院	
		教材	テキスト	著者：		
			配布資料			
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060107

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		一級建築士・計画	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	33
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
一級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅰ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。			
⑬ 授業の概要			
過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。			
⑭ 準備学習・事後学習			
单元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	学科Ⅰ_建築士の職責、建築設計の手法	17	
2	学科Ⅰ_居住施設	18	
3	学科Ⅰ_学校教育施設	19	
4	学科Ⅰ_社会教育施設	20	
5	学科Ⅰ_医療施設	21	
6	学科Ⅰ_高齢者施設	22	
7	学科Ⅰ_商業施設	23	
8	学科Ⅰ_細部計画	24	
9	学科Ⅰ_建築積算	25	
10	学科Ⅰ_都市計画	26	
11	学科Ⅰ_建築生産（マネジメント）	27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	一級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅰ計画） 配布資料
		出版社： 著者：	総合資格学院
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060111

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		一級建築士・環境設備				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	55	⑥ 単位数	2
⑦ 担当教員(代表)		近藤 幹		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
一級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。						
⑬ 授業の概要						
過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。						
⑭ 準備学習・事後学習						
单元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	学科Ⅱ_環境工学（日照・日射）		17			
2	学科Ⅱ_環境工学（採光・照明・色彩）		18			
3	学科Ⅱ_環境工学（室内気候と気象）		19			
4	学科Ⅱ_環境工学（換気）		20			
5	学科Ⅱ_環境工学（熱・結露）		21			
6	学科Ⅱ_環境工学（音響）		22			
7	学科Ⅱ_建築設備（空気調和設備）		23			
8	学科Ⅱ_建築設備（省エネルギー・保全・管理）		24			
9	学科Ⅱ_建築設備（給排水・衛生設備）		25			
10	学科Ⅱ_建築設備（電気設備・昇降機設備）		26			
11	学科Ⅱ_建築設備（防火・防災設備）		27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	一級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅱ計画）	出版社：	総合資格学院	
		教材	配布資料	著者：		
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060112

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		一級建築士・法規	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年 1
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数 88
⑦ 担当教員(代表)		峰松 将馬	⑥ 単位数 3
⑨ 授業形態		講義	⑧ 実務経験 設計実務経験者
⑪ 評価基準		⑩ 授業の実施方法	対面授業
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
一級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。			
⑬ 授業の概要			
過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。			
⑭ 準備学習・事後学習			
单元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	学科Ⅲ_用語の定義、面積・高さ	17	
2	学科Ⅲ_確認申請、建築手続き	18	
3	学科Ⅲ_一般構造	19	
4	学科Ⅲ_防火区画、耐火、防火、防火地域、準防火地域	20	
5	学科Ⅲ_避難施設、内装制限、建築設備	21	
6	学科Ⅲ_構造強度、道路、用途地域	22	
7	学科Ⅲ_容積率、建蔽率、高さ制限	23	
8	学科Ⅲ_地区計画、建築協定、雑則	24	
9	学科Ⅲ_建築士法、都市計画法	25	
10	学科Ⅲ_建設業法、消防法、バリアフリー法	26	
11	学科Ⅲ_その他関係法令	27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	一級建築士学科 受験テキスト (学科Ⅲ計画) 配布資料
		出版社： 著者：	総合資格学院
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060113

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		一級建築士・構造	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	88
		⑥ 単位数	3
⑦ 担当教員(代表)		峰松 将馬	
⑨ 授業形態		⑧ 実務経験	設計実務経験者
		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
一級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅳ」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。			
⑬ 授業の概要			
過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。			
⑭ 準備学習・事後学習			
单元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	学科Ⅳ_構造力学（静定構造物、断面の性質と応力度、部材の変形）	17	
2	学科Ⅳ_構造力学（不静定構造物、座屈）	18	
3	学科Ⅳ_構造力学（振動、塑性解析）	19	
4	学科Ⅳ_建築材料（木材と木質材料、鋼材と金属材料、コンクリート）	20	
5	学科Ⅳ_各種構造（構造計画）	21	
6	学科Ⅳ_各種構造（構造計算）	22	
7	学科Ⅳ_各種構造（木質構造）	23	
8	学科Ⅳ_各種構造（鉄骨構造）	24	
9	学科Ⅳ_各種構造（鉄筋コンクリート構造）	25	
10	学科Ⅳ_各種構造（合成構造、プレストレストコンクリート造）	26	
11	学科Ⅳ_各種構造（制振構造、免震構造、壁構造、組積造、基礎構造）	27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	一級建築士学科 受験テキスト（学科Ⅳ計画）
		教材	配布資料
		出版社：	総合資格学院
		著者：	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060114

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		一級建築士・施工	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	88
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
一級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科V」分野の学習を行う。各分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。			
⑬ 授業の概要			
過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各单元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。			
⑭ 準備学習・事後学習			
单元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	学科V_施工計画、工程管理、工事監理、工事管理	17	
2	学科V_現場管理、建設業法、環境関連、材料管理、申請・届出	18	
3	学科V_測量、地盤調査、仮設工事、土工事・山留工事	19	
4	学科V_基礎工事、鉄筋工事、型枠工事	20	
5	学科V_コンクリート工事、プレキャスト工事、鉄骨工事	21	
6	学科V_メンソリー工事、ALCパネル工事、ECP工事	22	
7	学科V_木工事、防水工事	23	
8	学科V_張石工事、タイル工事、左官工事	24	
9	学科V_屋根・金属工事、カーテンウォール・ガラス工事	25	
10	学科V_内装工事、塗装工事	26	
11	学科V_改修工事、設備工事、施工機械	27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	一級建築士学科 受験テキスト (学科V計画) 配布資料
		出版社： 著者：	総合資格学院
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060115

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		一級建築士・製図				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	330	⑥ 単位数	11
⑦ 担当教員(代表)		峰松 将馬		⑧ 実務経験	設計実務経験者	
⑨ 授業形態		実習		⑩ 授業の実施方法	対面授業	
⑪ 評価基準						
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
一級建築士設計製図課題に対する、計画手法を学びまた、作図技術を向上させ、実技試験合格を目差す。建築物を設計することで、建築士の責任意識を高め社会から歓迎される人柄を養い、即戦力として活躍出来る人材に育てる。						
⑬ 授業の概要						
製図の実習形式で、計画から作図の演習を行い、建築設計図の基本を認識し、模擬問題を通して設計課題製図に対する実技の修得をする。						
⑭ 準備学習・事後学習						
各授業で実践課題を課すので、復習を兼ねて期日まで2時間以上取り組むこと。						
⑮ 授業計画						
1	一級建築士設計課題図面	標準図（平面図）の作成	17			
2	一級建築士設計課題図面	標準図（断面図）の作成	18			
3	一級建築士設計課題図面	標準図（読み取り、構造計画、設備計画）	19			
4	一級建築士設計課題図面	標準図（一式図）の作成	20			
5	一級建築士設計課題図面	設計課題①（エスキスから作図まで）	21			
6	一級建築士設計課題図面	設計課題②（エスキスから作図まで）	22			
7	一級建築士設計課題図面	設計課題③（エスキスから作図まで）	23			
8	一級建築士設計課題図面	設計課題④（エスキスから作図まで）	24			
9	一級建築士設計課題図面	設計課題⑤（エスキスから作図まで）	25			
10	一級建築士設計課題図面	設計課題⑥（エスキスから作図まで）	26			
11	一級建築士設計課題図面	模擬試験	27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	一級建築士 設計製図 基礎	出版社：	総合資格学院	
		教材	テキスト	著者：		
			配布資料			
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060117

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築造形 A	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		③ 履修学年	
必修		1	
⑤ 時間数		⑥ 単位数	
30		2	
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	
鈴木 樹		設計実務経験者	
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	
演習		対面授業	
⑪ 評価基準			
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれ、この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。			
⑬ 授業の概要			
イントロプログラムにより事前に授業概要を把握させ、スクーリング型式で建築のかたちと空間をデザインコンセプトモデル(模型)を作成し発表会の形で表現する。			
⑭ 準備学習・事後学習			
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	課題説明、空間・造形スタディ	17	
2	空間・造形スタディ	18	
3	空間・造形スタディ	19	
4	スタディ模型	20	
5	スタディ模型	21	
6	プレゼンボード作成	22	
7	プレゼンボード作成	23	
8	プレゼンボード作成	24	
9	プレゼンボード作成	25	
10	講評	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	出版社：
		教材	著者：
		配布資料	
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060401

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築造形B				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		鬼頭 和弘		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		演習		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
平面に写真のような立体的な表現をする透視図は、より多くの情報を第三者に伝えることができるのでその描き方を学び、建築物の立体的な表現を身につけ、その成果として、著名な建築物の内観透視図・外観透視図を作成する。						
⑬ 授業の概要						
テキストにより、建築を表現する手法について知識を広く得るとともに、実際に描くことで、技法を習得する。その後、自分の意図した空間・形態を的確に立体的に表現する手法を実際の建築物と照らし合わせながら習得する。						
⑭ 準備学習・事後学習						
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	第1課題	外観透視図	17			
2	第1課題	外観透視図	18			
3	第1課題	外観透視図	19			
4	第1課題	外観透視図	20			
5	第1課題	外観透視図	21			
6	第2課題	内観透視図	22			
7	第2課題	内観透視図	23			
8	第2課題	内観透視図	24			
9	第2課題	内観透視図	25			
10	第2課題	内観透視図	26			
11			27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	建築製図の基本と描き方	出版社：	彰国社	
		教材		著者：	フランスD.K.チン	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060402	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築造形C				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	2	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	144	⑥ 単位数	9
⑦ 担当教員(代表)		牧 秀明		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
この科目の狙いは2つあり、1つ目は過去の建築の空間構成・造形原理を探求し、理解すること。模型制作を通じて、その建築を設計した人物がどうやってそのデザインに至ったのかを考えること。2つ目のねらいは、単に本物そっくりな精巧な模型を作るのではなく、目的に応じた作り分けが必要とされる建築的模型表現方法を修得すること。						
⑬ 授業の概要						
築模型は「自分のためのもの」と「人のためのもの」との2種類に大別される。前者は建築の造形を考えるにあたって自己確認、あるいは試行錯誤するための模型であり、後者は人に説明する、あるいは説得するためのプレゼンテーション模型である。趣味で作る模型と違い、限られた時間と費用で効果のある表現をするための基礎知識と技術を、課題を通して修得する。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	第1課題	スタディ模型（2種類）作成	17			
2	第1課題	スタディ模型（2種類）作成	18			
3	第1課題	スタディ模型（2種類）作成	19			
4	第1課題	スタディ模型（2種類）作成	20			
5	第1課題	スタディ模型（2種類）作成	21			
6	第1課題	スタディ模型（2種類）作成	22			
7	第1課題	スタディ模型（2種類）のプレゼンボード作成	23			
8	第1課題	スタディ模型（2種類）のプレゼンボード作成	24			
9	第2課題	スタディ模型の型紙を利用して、プレゼンテーション模型を制作	25			
10	第2課題	スタディ模型の型紙を利用して、プレゼンテーション模型を制作	26			
11	第2課題	スタディ模型の型紙を利用して、プレゼンテーション模型を制作	27			
12	第2課題	スタディ模型の型紙を利用して、プレゼンテーション模型を制作	28			
13	第2課題	スタディ模型の型紙を利用して、プレゼンテーション模型を制作	29			
14	第2課題	スタディ模型の型紙を利用して、プレゼンテーション模型を制作	30			
15	第2課題	プレゼンテーション模型のプレゼンボード作成	31			
16	第2課題	プレゼンテーション模型のプレゼンボード作成	32			
⑰ その他		教科書	建築模型の作り方と設計への活用	出版社：	彰国社	
		教材		著者：	村尾成文・渡邊嘉雄	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060403

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築計画学Ⅰ				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		児玉 道子		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
建築を計画する際には、快適性、安全性、経済性、機能性、意匠性、依頼者からの要求、法的条件、地理的条件などを多くの事柄を考えなければならない。それら一つ一つを適切に把握し、総合的に計画（プランニング）する。ここでは最も身近な「住宅」を対象とし、そのプランニング手法、空間デザイン手法、建築計画の基本的な方法論を習得する。						
⑬ 授業の概要						
建築計画の基本的な内容から「住宅」に関わる内容を講義し、各自がテキスト中の戸建て住宅及び集合住宅からそれぞれを1つ取り上げ、レポートを作成する。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	建築の始まりから解体・廃業まで、建築に携わる人と組織	17				
2	計画と設計、風土と建築、文化と建築、社会と建築、	18				
3	健康と建築、空間と知覚、空間と人間の行動、利用の計画、成長と変化の計画	19				
4	寸法の計画、形の比例と寸法のシステム、建築物における事故と安全計画、行為と家具	20				
5	デザインすることの意味、設計方法論、住居系（住宅、集合住宅）	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	各自によるレポート作成	23				
8	各自によるレポート作成	24				
9	科目終末試験対策	25				
10	科目終末試験	26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	建築計画を学ぶ	出版社：	理工図書	
		教材		著者：	建築計画教材研究会	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060404	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築計画学Ⅱ	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
地域社会に開かれた、公共性を持った建築物は建築単体として成立するのではなく、社会の仕組みを反映し、地域の生活や文化との関わりの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社旗的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例を通して学習する。			
⑬ 授業の概要			
建築計画の「公共的な施設」に関わる内容を講義し、第1課題として、各自が複合施設の中から1つを取り上げ、その平面や断面計画を、規模や機能、用途構成利用形態、管理区分を、あるいは利用者、管理者の動線などから分析したレポートを作成する。第2課題として、施設の長寿命化を考える上で建築計画的に配慮できる手法や考えを整理し、その効果や課題を具体的にレポートにまとめる。			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	環境や文化との関わりから公共性について	17	
2	社会のしくみの中でさまざまな施設の成り立ちや展開について	18	
3	公共的な建築の経済性や運営、利用者の参加について	19	
4	各種施設それぞれの計画と設計について（規模や計画原単位、平面、断面計画、運営方式等）	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	科目終末試験対策	23	
8	科目終末試験	24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	建築計画を学ぶ
		教材	
		出版社：	理工図書
		著者：	建築計画教材研究会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060405

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築構造学Ⅰ 演習	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	20
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
構造物の骨組みについて理解し、それを基本に構造計画、構造設計することができる。			
⑬ 授業の概要			
建築構造学Ⅰの主要構造物である木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の概略的講義をもとに、建築物の骨組みや仕上げの構成を簡単な模型や多くの事例図を用いてより詳細に解説し、それらを基に安全な建築物を設計するための基本的な考え方を対話形式で解説するとともに、木造と鉄筋コンクリート造についての構造計画を概説し、演習を通して構造設計について触れてもらう。			
⑭ 準備学習・事後学習			
単元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	建築構造学の概要	17	
2	建築構造学の基礎	18	
3	木構造の基礎	19	
4	木構造の構造計画	20	
5	壁量の設計	21	
6	鉄筋コンクリート構造の概要	22	
7	鉄筋コンクリート構造設計	23	
8	鉄筋コンクリート造の構造計画	24	
9	鉄筋コンクリート構造応力解析	25	
10	修了試験	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	出版社： 著者：
備考	⑤については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060429

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築環境工学				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		岡戸 良介		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
建築をめぐる環境は、機能性や経済性を追求する時代から、人間自身の安全性や快適性、加えて自然環境への配慮に目が向けられている。建築環境を形成する要素は、人体に関する諸要因と光・音・熱・空気に関する物理的な諸要素、また文化、経済に関する諸要素などに分類できる。本講座では、物理的な環境の性質を理解することを軸に学習する。						
⑬ 授業の概要						
建築をめぐる環境は、機能性や経済性を追求する時代から、人間自身の安全性や快適性、加えて自然環境への配慮に目が向けられている。建築環境を形成する要素は、人体に関する諸要因と光・音・熱・空気に関する物理的な諸要素、また文化、経済に関する諸要素などに分類できる。本講座では、物理的な環境の性質を理解することを軸に学習する。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	生活環境の変遷、自然と暮らし		17			
2	日照・日射とすまい、照明、色		18			
3	音の性質、遮音と吸音、騒音		19			
4	住まいの温熱環境、空気汚染、換気、環境共生住宅		20			
5	各自によるレポート作成		21			
6	各自によるレポート作成		22			
7	各自によるレポート作成		23			
8	各自によるレポート作成		24			
9	科目終末試験対策		25			
10	科目終末試験		26			
11			27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	図解住居学5 住まいの環境		出版社：	彰国社
		教材			著者：	図解住居学編集委員会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060430

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		構造力学Ⅰ 演習				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		森 登		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
構造設計を行うために必要となる構造力学の基礎について学ぶ。内容は静定構造物を主に扱い、その構造物を構成する部材に働く力の大きさや部材の断面形状による力学的性質等である。また木材、コンクリート、鋼材といった建築材料を建築部材として使用した場合の簡単な部材設計も行う。						
⑬ 授業の概要						
講義は、(1) 構造力学概要、力、(2) 構造物、(3) 静定梁、(4) 静定ラーメン、(5) 静定トラス、(6) 断面の力学的特性、(7) ひずみ度と応力度、(8) 部材の設計、(9) 梁の変形 に分けて行い、最後に修了試験を実施し、理解度を確認する。						
⑭ 準備学習・事後学習						
単元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	構造設計力学概要、力		17			
2	構造物		18			
3	静定梁		19			
4	静定ラーメン		20			
5	静定トラス		21			
6	断面の力学的特性		22			
7	ひずみと応力度		23			
8	部材の設計		24			
9	梁の設計		25			
10	修了試験		26			
11			27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	初めての建築構造力学		出版社：	学芸出版社
		教材			著者：	建築のテキスト編集委員会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060431

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築材料学				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		鈴木 樹		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
建物を設計し施工するには建築に使用する材料の特性を熟知し、適切な材料が選択できるようにならなければならない。その地域で生産される素材や、規格され工場生産された多くの材料の建築との関係を見直し、すべての材料に対して、安全で合理的に使用できるように学ぶことが大切である。						
⑬ 授業の概要						
自宅あるいは知人の住宅の屋根、各室の床、壁、天井、窓などに要求される性能、及び実際に使用されている材料の名称と特徴をレポートとして提出させる。又10項目の設題をつくり主な建築材料の特性や使用目的を学ばせる。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	コンクリート、鉄骨	17				
2	木材	18				
3	プラスチック	19				
4	屋根材、外壁、床、天井	20				
5	窓・ガラス、雑材料	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	各自によるレポート作成	23				
8	各自によるレポート作成	24				
9	科目終末試験対策	25				
10	科目終末試験	26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	建築材料を学ぶ -その選択と施工まで-	出版社：	理工図書	
		教材		著者：	畑中重光他6人	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060409

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		設備計画学				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	2	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	24	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		荒居 秀征		⑧ 実務経験		施工実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
給排水衛生・防災設備、空気調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートできる。						
⑬ 授業の概要						
<p>建物は設備がないと非常に不便であり、時にはその建物の存在意義さえも失うことがある。</p> <p>建築設備は、給排水設備・防災設備と空気調和・換気設備、そして電気・通信設備の三つに大別される。現代建築を志す者にとっては、その根底に意匠と設備のマッチング、更に現代社会の目指す省エネルギーへの感覚が必要不可欠である。</p>						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	人間と建築設備、給排水設備	17				
2	換気設備、空調設備	18				
3	電気設備、熱源設備、消防・防災設備	19				
4	各自によるレポート作成	20				
5	各自によるレポート作成	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	科目終末試験対策	23				
8	科目終末試験	24				
9		25				
10		26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	わかる！建築設備	出版社：	オーム社	
		教材		著者：	柿沼整三	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060410	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築史	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	20
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
日本建築・西洋建築・近代建築の変遷と、各時代・地域における様式・構造・技術の特徴を理解し、それらをつくりだした理念や社会背景など文化の特質についても考える。			
⑬ 授業の概要			
各時代の権力者は政治・経済・文化を背景にその時代の先端技術・芸術を駆使し見事な空間・構造・装飾による建築を創造し続けた。一方、庶民はその地方性、風土性の影響の中で伝統的な技術手段でゆっくりとした変遷を辿り美しい民家・町家を造り続けた。近代に入ってこの2つは普遍化し現代建築が展開している。この歴史の中で専門家達が各時代に何を基本的技法手段で建造したのか、その内容を深く学びとることが明日の建築文化を創造する大切な姿勢である。			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	日本古代、中世、近世の建築	17	
2	西洋古代、中世、近世の建築	18	
3	近代建築の発生、発展、日本の近代建築	19	
4	各自によるレポート作成	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	各自によるレポート作成	23	
8	各自によるレポート作成	24	
9	科目終末試験対策	25	
10	科目終末試験	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	建築史 増補改訂版
		教材	日本建築学会 各建築史図集（彰国社）他
		出版社：	市ヶ谷出版社
		著者：	藤岡通夫 他
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060432

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築史演習																																																																		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2																																																																
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	24																																																																
⑦ 担当教員(代表)	澤田 多喜二	⑧ 実務経験																																																																	
⑨ 授業形態	講義	⑩ 授業の実施方法	対面授業																																																																
⑪ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。																																																																		
⑫ 授業の目的・目標	<p>(1) 歴史的建造物を実際に観察して、調査・分析し、歴史的変遷や建築的特徴を明らかにする (2) 都市や集落は、いかにして建築が造られ、建物が集合し、発展してきたか、文献史料や現地調査を基に、歴史性や地域性、文化的背景を踏まえて多角的に考察する。</p>																																																																		
⑬ 授業の概要	<p>建築史で学んだことを踏襲しながら、歴史的建造物や身近な近代建築物を実際に調査（聞き取り、観察含む。）、研究、分析を行う。ここでは、建築物のみならず、都市や集落といった集合体としてのマクロな視点からフィールド調査を行い、総合的に建築史を学習する。</p>																																																																		
⑭ 準備学習・事後学習	<p>単元ごとに小テストを行います。直前の範囲を復習してください。毎回、講義内容の2倍の自学自習を行うこと。</p>																																																																		
⑮ 授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>ケーススタディ海外編（レッチェ他、マルコス、マラケシュ、中国等）</td><td>17</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>ケーススタディ国内編（宮脇檀とデザインサーベいの軌跡他）</td><td>18</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>フィールド調査及び建物観察</td><td>19</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>調査分析</td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>各自によるレポート作成</td><td>21</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>各自によるレポート作成</td><td>22</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>各自によるレポート作成</td><td>23</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>各自によるレポート作成</td><td>24</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td>26</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>27</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>28</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>29</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>31</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td>32</td><td></td></tr> </table>			1	ケーススタディ海外編（レッチェ他、マルコス、マラケシュ、中国等）	17		2	ケーススタディ国内編（宮脇檀とデザインサーベいの軌跡他）	18		3	フィールド調査及び建物観察	19		4	調査分析	20		5	各自によるレポート作成	21		6	各自によるレポート作成	22		7	各自によるレポート作成	23		8	各自によるレポート作成	24		9		25		10		26		11		27		12		28		13		29		14		30		15		31		16		32	
1	ケーススタディ海外編（レッチェ他、マルコス、マラケシュ、中国等）	17																																																																	
2	ケーススタディ国内編（宮脇檀とデザインサーベいの軌跡他）	18																																																																	
3	フィールド調査及び建物観察	19																																																																	
4	調査分析	20																																																																	
5	各自によるレポート作成	21																																																																	
6	各自によるレポート作成	22																																																																	
7	各自によるレポート作成	23																																																																	
8	各自によるレポート作成	24																																																																	
9		25																																																																	
10		26																																																																	
11		27																																																																	
12		28																																																																	
13		29																																																																	
14		30																																																																	
15		31																																																																	
16		32																																																																	
⑰ その他	教科書	実測術?サーベイで都市を読む・建築を学ぶ	出版社：学芸出版社 著者：陣内秀信、中山繁信編著																																																																
	教材	日本建築学会 各建築史図集（彰国社）他																																																																	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060433																																																																

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築施工学				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	2	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	24	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		高野 太輔		⑧ 実務経験		施工実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
現地調査・見積もり・契約から、施工計画図・施工図の作成、材料・機械・労務の手配、各種工事の実施と管理、完了後の竣工検査までの施工の一連の流れを学ぶ。さらに熟練労働者の不足・現場作業の合理化の遅れ・現場災害の克服、現場一品生産からプレファブ化へ技術革新、管理技術の向上、産業廃棄物の問題などについて認識を持たせる。						
⑬ 授業の概要						
良いものを、如何にして、安く、早く、安全に、周囲の環境を損なうことなく造るにはどうしたらよいか。そのためには単に施工技術の知識技能だけでなく、材料の性質・構造原理・各種法規・環境工学等の知識が必要である。請負契約と見積、工事計画と施工管理、各種工事の施工法、完成後の施設の維持管理などの技術・知識及び関連している分野の知識を総合的に学習する。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	仮設工事、土工事・地業工事		17			
2	鉄筋コンクリート工事、鉄骨工事		18			
3	防水工事、仕上げ工事		19			
4	設備工事、解体工事と建築廃棄物処理、維持管理		20			
5	各自によるレポート作成		21			
6	各自によるレポート作成		22			
7	科目終末試験対策		23			
8	科目終末試験		24			
9			25			
10			26			
11			27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	建築施工教科書		出版社：	彰国社
		教材			著者：	建築施工教科書研究会
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。				科目コード	060413

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		都市計画学	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年 1
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数 20
⑦ 担当教員(代表)		吉岡 竜巳	⑥ 単位数 1
⑨ 授業形態		講義	⑩ 授業の実施方法 対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
日本、及び欧米の都市計画の基本理念の系譜をたどり、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種施設、建築物の計画方法について学習する。			
⑬ 授業の概要			
都市計画の技術・手法について、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解し、現代の現実的な社会環境の中において都市計画が果たす役割や問題点を探り、これからの都市計画・都市デザインのあり方について考える。			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	19世紀の産業革命による工業化都市の出現について学ぶ	17	
2	都心部の整序をめざしたル・コルビュジェの提案と現代の都市計画の関連を学ぶ	18	
3	地方自治体が都市計画を策定するよう定められており、そのマスタープランについて学ぶ	19	
4	現在の都市の活動や姿、地域の特性、あるいは課題をどのようにとらえているか学ぶ	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	各自によるレポート作成	23	
8	各自によるレポート作成	24	
9	科目終末試験対策	25	
10	科目終末試験	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 初めて学ぶ都市計画 教材	出版社：市ヶ谷出版社 著者：執筆代表 伊達美德
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060414

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築法規	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけ、法令知識を養成する。			
⑬ 授業の概要			
建築基準法上、一般的な在来木造住宅を計画する場合、その建築物自体の構造・防火・居室の環境（採光や換気など）・用途地域・規模(面積や高さ)に関してチェックすべき法令を調べ、その関連する法令名、条文番号を挙げ、その目的や制限内容をまとめる。			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	建築基準法の単体規定について学ぶ	17	
2	建築基準法の集団規定について学ぶ	18	
3	単体規定・集団規定の具体例をあげて関係法令のチェック	19	
4	各自によるレポート作成	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	科目終末試験対策	23	
8	科目終末試験	24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	初めての建築法規
		教材	出版社：学芸出版社 著者：編集委員長 前田幸夫
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060434

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築デザイン論				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		弓場 明彦		⑧ 実務経験		
⑨ 授業形態		講義	⑩ 授業の実施方法		対面授業	
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義。これに従えば、建築デザインとは、「施工に先立ち、建築空間の形を造ること」と言えるだろう。この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間と、それを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されて行くのかを習得する。						
⑬ 授業の概要						
テキストにより、建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。さらに、建築を形態によって分析し、デザインの手法についての理解を深める。身近にある公共的な建築物のなかで、デザイン的に優れていると思われるものを選び、どのようなデザイン手法で、形態が構成されているのかを分析し、どのようなコンセプトで設計されているのかを学ぶ。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	デザインの手法「立てる、覆う、囲う、積む、掘る・刻む」について学ぶ	17				
2	デザインの手法「並べる、整える、区切る、混ぜる、つなぐ」について学ぶ	18				
3	デザインの手法「対比させる、変化させる、浮かす、透かす・抜く」について学ぶ	19				
4	デザインの手法「動きを与える、飾る、象徴させる、自然を取り込む、時間を語る」について学ぶ	20				
5	各自によるレポート作成	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	各自によるレポート作成	23				
8	各自によるレポート作成	24				
9	科目終末試験対策	25				
10	科目終末試験	26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	空間デザイン事典	出版社：	井上書院	
		教材		著者：	久原裕	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060416	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		C A D I	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	30
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
建築分野では、建築設計に限らず施工や構造においても迅速かつ正確な図面作成を必要とするためなくてはならない設計ツールとなっている。本科目では建築業界で多く使われる2次元CADを用い図形や建築図面のトレースを行い、CADの基本操作を修得するとともに、設計課題として各自プランをCADで仕上げ、CADの利便性をより深く理解する。			
⑬ 授業の概要			
CADソフトの概要を学び、AutoCADの基本操作から建築図面の作図にかかる応用操作を習得し、平面図等の作図（課題）を完成させる。			
⑭ 準備学習・事後学習			
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	CADソフトの概説、AutoCADの基本操作等	17	
2	建築図面の作図にかかる応用操作と課題の作図	18	
3	課題制作、エスキスチェック	19	
4	課題制作、エスキスチェック	20	
5	課題制作、エスキスチェック	21	
6	課題制作、エスキスチェック	22	
7	課題制作、エスキスチェック	23	
8	プレゼンテーション	24	
9	プレゼンテーション	25	
10	課題提出、講評	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	AutoCAD入門&実践バイブル 出版社：技術評論社 著者：
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060435

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		C A D II	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	38
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
Autodesk（オートデスク）社のAutoCAD Architecture（オートキャドアーキテクチャ）を使用し、CADIで修得した知識を基に、AutoCAD Architectureの3次元設計機能に触れる事でCADにおける造形思想を理解し、立体的な造形手順を修得します。			
⑬ 授業の概要			
操作手順や検索手順を自力にて習得できるようになる事を目的に、CADの基本操作を習得し課題エスキスを完成させる。個別指導を受けながら、エスキスしたものを図面化し、完成させる。提出課題は。授業の中で講評する。			
⑭ 準備学習・事後学習			
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	CADの基本操作を習得、課題エスキス	17	
2	課題制作、エスキスチェック	18	
3	課題制作、エスキスチェック	19	
4	課題制作、エスキスチェック	20	
5	課題制作、エスキスチェック	21	
6	プレゼンテーション	22	
7	プレゼンテーション	23	
8	課題提出、講評	24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	AutoCAD入門&実践バイブル 出版社：技術評論社 著者：
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060436

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅰ-a																																																																		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	1																																																																
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	30																																																																
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑥ 単位数	2																																																																
⑧ 実務経験	設計実務経験者																																																																		
⑨ 授業形態	演習	⑩ 授業の実施方法	対面授業																																																																
⑪ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。																																																																		
⑫ 授業の目的・目標	住宅は、そこで子供を育て家族を看取り、人生の多くの時間を過ごす、建築主個人の生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住宅」を課題として、「建築計画」と「設計製図」の基礎を学ぶ。																																																																		
⑬ 授業の概要	この授業では、小規模専用住宅を課題に、設計家としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間のデザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現する図法や表現法の基礎を学びます。																																																																		
⑭ 準備学習・事後学習	学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。																																																																		
⑮ 授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>住宅設計を通して建築物の企画・設計の考え方と手法を学ぶ</td><td>17</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>小規模専用住宅の設計図面の作成について学ぶ</td><td>18</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>住宅の外観スケッチの作成と模型制作</td><td>19</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>住宅の外観スケッチの作成と模型制作</td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>プレゼンボード作成</td><td>21</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>プレゼンボード作成</td><td>22</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>プレゼンボード作成</td><td>23</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>プレゼンボード作成</td><td>24</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>プレゼンボード作成</td><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>課題提出、講評</td><td>26</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>27</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>28</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>29</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>31</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td>32</td><td></td></tr> </table>			1	住宅設計を通して建築物の企画・設計の考え方と手法を学ぶ	17		2	小規模専用住宅の設計図面の作成について学ぶ	18		3	住宅の外観スケッチの作成と模型制作	19		4	住宅の外観スケッチの作成と模型制作	20		5	プレゼンボード作成	21		6	プレゼンボード作成	22		7	プレゼンボード作成	23		8	プレゼンボード作成	24		9	プレゼンボード作成	25		10	課題提出、講評	26		11		27		12		28		13		29		14		30		15		31		16		32	
1	住宅設計を通して建築物の企画・設計の考え方と手法を学ぶ	17																																																																	
2	小規模専用住宅の設計図面の作成について学ぶ	18																																																																	
3	住宅の外観スケッチの作成と模型制作	19																																																																	
4	住宅の外観スケッチの作成と模型制作	20																																																																	
5	プレゼンボード作成	21																																																																	
6	プレゼンボード作成	22																																																																	
7	プレゼンボード作成	23																																																																	
8	プレゼンボード作成	24																																																																	
9	プレゼンボード作成	25																																																																	
10	課題提出、講評	26																																																																	
11		27																																																																	
12		28																																																																	
13		29																																																																	
14		30																																																																	
15		31																																																																	
16		32																																																																	
⑰ その他	教科書 教材	建築設計教室新訂2版	出版社： 著者： 彰国社 勝又英明																																																																
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060419																																																																

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅱ－a																																																																		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2																																																																
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	38																																																																
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者																																																																
⑨ 授業形態	演習	⑩ 授業の実施方法	対面授業																																																																
⑪ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。																																																																		
⑫ 授業の目的・目標	住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案プレゼンテーションの方法を身につける。																																																																		
⑬ 授業の概要	商業施設、街かどのギャラリーなど、イメージしやすい規模と用途を持ち、地域に開かれた機能を持つ施設について、コンセプト作りから始め、模型作成とエスキスをを行い、具体的な空間デザインを進める。各個人で図面や模型をまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。																																																																		
⑭ 準備学習・事後学習	学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。																																																																		
⑮ 授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>課題説明。商業施設など、地域に開かれた機能を持つ施設の設計</td><td>17</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める</td><td>18</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める</td><td>19</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>プレゼンボード作成</td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>プレゼンボード作成</td><td>21</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>プレゼンボード作成</td><td>22</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>プレゼンボード作成</td><td>23</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>課題提出、講評</td><td>24</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td>26</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>27</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>28</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>29</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>31</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td>32</td><td></td></tr> </table>			1	課題説明。商業施設など、地域に開かれた機能を持つ施設の設計	17		2	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める	18		3	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める	19		4	プレゼンボード作成	20		5	プレゼンボード作成	21		6	プレゼンボード作成	22		7	プレゼンボード作成	23		8	課題提出、講評	24		9		25		10		26		11		27		12		28		13		29		14		30		15		31		16		32	
1	課題説明。商業施設など、地域に開かれた機能を持つ施設の設計	17																																																																	
2	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める	18																																																																	
3	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める	19																																																																	
4	プレゼンボード作成	20																																																																	
5	プレゼンボード作成	21																																																																	
6	プレゼンボード作成	22																																																																	
7	プレゼンボード作成	23																																																																	
8	課題提出、講評	24																																																																	
9		25																																																																	
10		26																																																																	
11		27																																																																	
12		28																																																																	
13		29																																																																	
14		30																																																																	
15		31																																																																	
16		32																																																																	
⑰ その他	教科書 教材	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版 著者：日本建築学会編																																																																
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060420																																																																

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅲ－a																																																																		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2																																																																
④ 必修・選択の別	必修	⑤ 時間数	38																																																																
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑥ 単位数	2																																																																
⑧ 実務経験	設計実務経験者																																																																		
⑨ 授業形態	演習	⑩ 授業の実施方法	対面授業																																																																
⑪ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。																																																																		
⑫ 授業の目的・目標	「建築設計Ⅱ－1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせてプレゼンテーションの方法を身につける。																																																																		
⑬ 授業の概要	中心市街地や住宅地で求められる複合機能の公共施設の設計を通じ、機能と空間の両面から、地域の風景に調和した公共空間をデザインする手法を学ぶ。作品は、スタディ模型を利用しながら各個人で図面としてまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。																																																																		
⑭ 準備学習・事後学習	学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。																																																																		
⑮ 授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>課題説明。中心市街地等で求められる複合機能の公共施設の設計</td> <td>17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>複合機能の公共施設の設計とスタディ模型の作成</td> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>プレゼンボード作成</td> <td>19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>プレゼンボード作成</td> <td>20</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>プレゼンボード作成</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>プレゼンボード作成</td> <td>22</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>プレゼンボード作成</td> <td>23</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>課題提出、講評</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td>25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>26</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td>27</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td>29</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td>31</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td></td> <td>32</td> <td></td> </tr> </table>			1	課題説明。中心市街地等で求められる複合機能の公共施設の設計	17		2	複合機能の公共施設の設計とスタディ模型の作成	18		3	プレゼンボード作成	19		4	プレゼンボード作成	20		5	プレゼンボード作成	21		6	プレゼンボード作成	22		7	プレゼンボード作成	23		8	課題提出、講評	24		9		25		10		26		11		27		12		28		13		29		14		30		15		31		16		32	
1	課題説明。中心市街地等で求められる複合機能の公共施設の設計	17																																																																	
2	複合機能の公共施設の設計とスタディ模型の作成	18																																																																	
3	プレゼンボード作成	19																																																																	
4	プレゼンボード作成	20																																																																	
5	プレゼンボード作成	21																																																																	
6	プレゼンボード作成	22																																																																	
7	プレゼンボード作成	23																																																																	
8	課題提出、講評	24																																																																	
9		25																																																																	
10		26																																																																	
11		27																																																																	
12		28																																																																	
13		29																																																																	
14		30																																																																	
15		31																																																																	
16		32																																																																	
⑯ その他	教科書 教材	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社： 丸善出版 著者： 日本建築学会編																																																																
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060421																																																																

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		測量学	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	施工実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
測量技術の基本となる距離測量・角測量・水準測量・トラバース測量・平板測量などの正確な測定方法と作図及び面積計算、および各種測定において生じる誤差の原理の意味とその調整方法を学習する。また、建築測量の実際、および、近年の最新測量技術としての光波測量・GPS等についても学ぶ。			
⑬ 授業の概要			
①測量のための数学 ③距離、角、高さの測量、位置決定のための測量 ⑤地形測量、建築測量			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	測量のための数学	17	
2	距離、角、高さの測量、位置決定のための測量	18	
3	地形測量、建築測量	19	
4	各自によるレポート作成	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	科目終末試験対策	23	
8	科目終末試験	24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	最新測量学 出版社：森北出版 著者：上浦正樹 他
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060422

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		地球環境と建築				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	2	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	24	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		荒居 秀征		⑧ 実務経験		施工実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
建築がどれだけ地球環境問題の解決に寄与できるか、その理念や目標、具体的な手法を理解し、サステナブル社会におけるこれからの建築のあり方を示す地球環境建築について考える。						
⑬ 授業の概要						
1. 様々な環境問題の理解と社会における動向の把握 2. 環境負荷の少ない持続可能な建築のあり方 3. 環境負荷の少ない持続可能な都市・地域のあり方						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	地球環境と建築、その時代背景、地球環境建築の基本的視点	17				
2	地球環境建築のビジョンとつくり方、使い方、気候風土と省エネルギー	18				
3	都市環境と熱、エネルギー、建築の省エネルギー、	19				
4	ライフサイクルエネルギー、パッシブデザイン・アクティブデザイン	20				
5	建築の寿命、資源の有効利用、安全と健康、デザインプロセスと評価	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	科目終末試験対策	23				
8	科目終末試験	24				
9		25				
10		26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	地球環境建築のすすめ	出版社：	彰国社	
		教材		著者：	日本建築学会編	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060423	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		福祉と建築				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		児玉 道子		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
福祉支援に関する法制度や高齢者・障害者の身体的特徴、福祉住環境整備の技術的内容について学習し、ノーマライゼーションの概念に基づいた、バリアフリーやユニバーサルデザインの具体的な計画・設計手法について理解する。						
⑬ 授業の概要						
1.福祉住環境における基本的考え方 2.高齢者・障害者の心身特性と環境整備のポイント 3.日本の住宅と住生活上の課題 4.福祉住環境整備実現のための基本的知識と技術 5.高齢者・障害者のための住環境整備関連施策 6.福祉住環境整備に関わる法規等						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	現代社会に望まれる住環境、福祉住環境の意義と役割	17				
2	高齢者・障害者に対する環境整備の意義、高齢者・障害者の身体特性	18				
3	障害者の各疾患と環境整備、生活活動から見た福祉用具、	19				
4	日本の住宅と住生活上の課題、各部屋・場所の具体的環境整備、	20				
5	福祉住環境整備に関わる法規等	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	各自によるレポート作成	23				
8	各自によるレポート作成	24				
9	科目終末試験対策	25				
10	科目終末試験	26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	福祉住環境 新版	出版社：	市ヶ谷出版	
		教材		著者：	水村容子	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060424	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		防災と建築				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	1	
④ 必修・選択の別		必修	⑤ 時間数	20	⑥ 単位数	1
⑦ 担当教員(代表)		鈴木 樹		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		講義		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
我が国は世界の中でも有数の災害国と言われている。その種類も広域におよぶ甚大なものから、日常レベルのものまで多岐にわたっており、常に災害や事故と背中合わせで暮らしていると言っても過言ではない。本科目では、建築と災害とにかかわる諸問題について幅広く学習し、建築として取り組まなければならない課題について研究する。						
⑬ 授業の概要						
地震や気象災害など風土に根ざす災害について学び、克服する方策を考察するとともに人口の密集や都市化など、社会現象がもたらす人起因の災害について学ぶ。また、建築の内外で日常に潜む事故や小さな災害についても学んでいく。						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	木造建築・耐火造建築における火災の特性とそれぞれの火災の防止と被害の低減のため対策等。	17				
2	地震が建築物に与える災害と、地震の被害から建築物や人命を守る方法について学ぶ。	18				
3	住宅内で起こる事故例と、その防止策について学ぶ。	19				
4	気象に起因する災害について考察し、その防止策を考える。	20				
5	各自によるレポート作成	21				
6	各自によるレポート作成	22				
7	各自によるレポート作成	23				
8	各自によるレポート作成	24				
9	科目終末試験対策	25				
10	科目終末試験	26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書	建築学の基礎7 建築防災	出版社：	共立出版	
		教材		著者：	大宮喜文	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060425	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		景観論	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	⑥ 単位数
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
日本では景観の価値が未だ、国民のコンセンサスになっていないといわれている。風景や景観についての議論は盛んであるし、景観学や景観設計についての研究も進んでいるが、日本の景観はなかなか美しくならない。そこでこの科目では景観とデザインについての両文献から建築デザインとはどういうものなのか学んでいく。			
⑬ 授業の概要			
自分が住んでいるまち並みの景観について調査し、変わってほしいところは、どのようなどのようなデザインすればよいかを写真やスケッチ、図表等によりビジュアルに表現する。また、変わってほしくないところはどのように保全されてきたのかを調査しレポートする。			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	自分の町の景観について調査	17	
2	調査結果のまとめ	18	
3	変わってほしい所と変わってほしくないところを明確にして、レポートの構成を考える	19	
4	各自によるレポート作成	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	科目終末試験対策	23	
8	科目終末試験	24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	景観用語事典増補改訂版
		教材	出版社： 彰国社 著者： 篠原修
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060426

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		建築技術史	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	24
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
各時代の基本的建築手段と建造方法を学び、明日の建築文化を創造する姿勢と資質向上を図る。設計から施工、監理までの実践的な内容を習得し、即戦力の建築技術者としての育成を図る（技術後継者としての育成）。			
⑬ 授業の概要			
建築史で学んだことを踏襲し、建築演習の調査研究と並行しながら、実践的な建築技術の歴史を理解する。建築技術史は、産業革命を軸として大局的に2つに分けられる。従って、産業革命の前と後の技術変遷について習得し、技術史の集大成として総合的に理解する。			
⑭ 準備学習・事後学習			
⑮ 授業計画			
1	現代建築の原点、木造技術の変遷、組積造の系譜	17	
2	鉄骨造の完成とガラスハウス、RC造の進化	18	
3	更なる建築の技術革新、もう一方の技術史	19	
4	これからの技術	20	
5	各自によるレポート作成	21	
6	各自によるレポート作成	22	
7	科目終末試験対策	23	
8	科目終末試験	24	
9		25	
10		26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	東京の近代建築 建築構造入門 出版社：理工学社 著者：江口敏彦著、山口廣監修 絵で見る近代建築とデザインの歩み ビル・ライズベロ著（鹿島出版会）
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060427

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		ワークショップ概論				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	2	
④ 必修・選択の別		選必A	⑤ 時間数	30	⑥ 単位数	2
⑦ 担当教員(代表)		鈴木 樹		⑧ 実務経験		設計実務経験者
⑨ 授業形態		演習		⑩ 授業の実施方法		対面授業
⑪ 評価基準						
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。						
⑫ 授業の目的・目標						
本演習を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り： (1)「場づくり」のそもそもの意味を理解することができる (2)コミュニケーションの基礎を体得できる (3)場づくりの基本的な技法を実施することができる						
⑬ 授業の概要						
建築は、学校以外のさまざまな場所や社会において他者との対話によって創り上げられていくものであり、その過程での多様な主体との協働がワークショップである。演劇での創造的な活動に根差したその原点から、現代のさまざまな合意形成の場面で欠かせない手法に展開したワークショップの理論と実践を学ぶ。						
⑭ 準備学習・事後学習						
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。						
⑮ 授業計画						
1	オリエンテーション、ワークショップ体験（自己紹介ワーク・アイスブレイク）	17				
2	コミュニケーションの基礎、準備	18				
3	ファシリテーションの本番に向けて（1）	19				
4	ファシリテーションの本番	20				
5	ワークショップのプレゼンテーション・ワークショップの総仕上げ	21				
6	ファシリテーションの本番	22				
7	ファシリテーションの本番	23				
8	ファシリテーションの本番	24				
9	ファシリテーション全体のまとめと振り返り	25				
10	振り返り：まとめと未来に向けて	26				
11		27				
12		28				
13		29				
14		30				
15		31				
16		32				
⑰ その他		教科書 教材	ファシリテーション入門〈第2版〉	出版社： 著者：	日本経済新聞出版 堀 公俊	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060451	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		プレゼンテーション概論				
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科		③ 履修学年	2	
④ 必修・選択の別		選必A	⑤ 時間数	100	⑥ 単位数	6
⑦ 担当教員(代表)		木下 太		⑧ 実務経験 設計実務経験者		
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法		対面授業		
⑪ 評価基準						
⑫ 授業の目的・目標						
<p>自ら発する情報内容の羅列に留まらず、聞く、見る側にとって、必要な情報を絞り込み、美しき的確で分かりやすく丁寧に伝える事を学ぶ。また、伝える情報はどのような階層の人々に対して、所謂第三に向けて分かりやすいように多言語認知が可能ないように表現する。すなわち全てを視覚的に可視情報へ変換して伝達できるようにすることを学ぶ。</p>						
⑬ 授業の概要						
<p>プレゼンテーションは、自らの企画・提案や設計・研究の成果等を他者に伝える上で必須かつ重要な手段の一つであり、その重要性は近年大きくなっている。IT技術活用も含めた表現力、分析力、構成力を養い、総合的な伝達力を学ぶ。</p>						
⑭ 準備学習・事後学習						
⑮ 授業計画						
1	課題の説明および選択		17			
2	プレゼンテーションパネルの制作		18			
3	プレゼンテーションパネルの制作		19			
4	模型の制作		20			
5	模型の制作		21			
6	模型の制作		22			
7	レポート作成		23			
8	レポート作成		24			
9	レポート作成		25			
10	作品の提出		26			
11			27			
12			28			
13			29			
14			30			
15			31			
16			32			
⑰ その他		教科書	レイアウト、基本の「き」	出版社：	グラフィック社	
		教材	建築プレゼンの掟	著者：	佐藤直樹	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060452	

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計 I - b																																																																		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2																																																																
④ 必修・選択の別	選必A	⑤ 時間数	100																																																																
⑦ 担当教員(代表)	市田 彰秀	⑥ 単位数	6																																																																
⑧ 実務経験		⑩ 授業の実施方法	対面授業																																																																
⑨ 授業形態	演習																																																																		
⑪ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。																																																																		
⑫ 授業の目的・目標	課題を設計していく過程において、製図の方法を学び製図術を身につけながら、建築という三次元の空間の造形力とセンスを養う。																																																																		
⑬ 授業の概要	店舗併用住宅を設計することで、住宅、店舗、工場など建築の基本的用途について、どのように設計したら快適な住まい、及び繁盛する店舗デザイン、合理的で使いやすい作業空間がよいか同時に学んでいく。模型で造形をスタディし、デザインボードでプレゼンテーションの技法を習得して建築デザインの基本をマスターすることを学習の目標としている。																																																																		
⑭ 準備学習・事後学習	学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。																																																																		
⑮ 授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>店舗併用住宅の設計条件の整理</td><td>17</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>ゾーニングやエスキスによる案の構想</td><td>18</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>スタディ模型の制作</td><td>19</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>JIS建築製図通則に基づいた各種建築図面の作図</td><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>設計作品としてのプレゼンテーションテクニックの修得</td><td>21</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>プレゼンボード作成</td><td>22</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>プレゼンボード作成</td><td>23</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>プレゼンボード作成</td><td>24</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>プレゼンボード作成</td><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>課題提出、講評</td><td>26</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>27</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>28</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>29</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>31</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td>32</td><td></td></tr> </table>			1	店舗併用住宅の設計条件の整理	17		2	ゾーニングやエスキスによる案の構想	18		3	スタディ模型の制作	19		4	JIS建築製図通則に基づいた各種建築図面の作図	20		5	設計作品としてのプレゼンテーションテクニックの修得	21		6	プレゼンボード作成	22		7	プレゼンボード作成	23		8	プレゼンボード作成	24		9	プレゼンボード作成	25		10	課題提出、講評	26		11		27		12		28		13		29		14		30		15		31		16		32	
1	店舗併用住宅の設計条件の整理	17																																																																	
2	ゾーニングやエスキスによる案の構想	18																																																																	
3	スタディ模型の制作	19																																																																	
4	JIS建築製図通則に基づいた各種建築図面の作図	20																																																																	
5	設計作品としてのプレゼンテーションテクニックの修得	21																																																																	
6	プレゼンボード作成	22																																																																	
7	プレゼンボード作成	23																																																																	
8	プレゼンボード作成	24																																																																	
9	プレゼンボード作成	25																																																																	
10	課題提出、講評	26																																																																	
11		27																																																																	
12		28																																																																	
13		29																																																																	
14		30																																																																	
15		31																																																																	
16		32																																																																	
⑯ その他	教科書 教材	建築設計教室新訂2版	出版社： 彰国社 著者： 建築設計教育研究会編著																																																																
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060453																																																																

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅱ－b																																																		
② 対象学科	工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年	2																																																
④ 必修・選択の別	選必A	⑤ 時間数	100																																																
⑦ 担当教員(代表)	蜂須賀 亮子	⑥ 単位数	6																																																
⑧ 実務経験	設計実務経験者																																																		
⑨ 授業形態	演習	⑩ 授業の実施方法	対面授業																																																
⑪ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。																																																		
⑫ 授業の目的・目標	「建築設計Ⅱ－a」で学んだ建築設計・デザイン能力を更に磨くため、通信課題として設計作品の制作に取り組む。																																																		
⑬ 授業の概要	既存施設との関係性をテーマにした設計課題での主旨を十分に理解し、建築設計に関わる様々な要件を満たしながら、提案性のある魅力的な建築設計を目指す。文献調査や既存建築物の見学、構想・企画においてのエスキス、手書きやCADを用いた各種図面の作図、そして設計意図を的確に表現した作品制作など一連の設計作業を通して、総合的に建築設計が行える能力を養う。																																																		
⑭ 準備学習・事後学習	学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。																																																		
⑮ 授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>前川國男について調査</td><td>17</td></tr> <tr><td>2</td><td>前川國男自邸の資料入手および調査</td><td>18</td></tr> <tr><td>3</td><td>歴史的建築物の保存と再生・活用についての手法を学ぶ</td><td>19</td></tr> <tr><td>4</td><td>前川國男自邸を生かしたプログラムを考える</td><td>20</td></tr> <tr><td>5</td><td>前川自邸の何を残し、何を新しくするのかを考える</td><td>21</td></tr> <tr><td>6</td><td>空地へ設計する新たな建築と、前川自邸をどのように関係させるかを考える</td><td>22</td></tr> <tr><td>7</td><td>建物の機能性について、2つの建物の調和について、ランドスケープデザイン</td><td>23</td></tr> <tr><td>8</td><td>プレゼンボード作成</td><td>24</td></tr> <tr><td>9</td><td>プレゼンボード作成</td><td>25</td></tr> <tr><td>10</td><td>課題提出、講評</td><td>26</td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>27</td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>28</td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>29</td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td>30</td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>31</td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td>32</td></tr> </table>			1	前川國男について調査	17	2	前川國男自邸の資料入手および調査	18	3	歴史的建築物の保存と再生・活用についての手法を学ぶ	19	4	前川國男自邸を生かしたプログラムを考える	20	5	前川自邸の何を残し、何を新しくするのかを考える	21	6	空地へ設計する新たな建築と、前川自邸をどのように関係させるかを考える	22	7	建物の機能性について、2つの建物の調和について、ランドスケープデザイン	23	8	プレゼンボード作成	24	9	プレゼンボード作成	25	10	課題提出、講評	26	11		27	12		28	13		29	14		30	15		31	16		32
1	前川國男について調査	17																																																	
2	前川國男自邸の資料入手および調査	18																																																	
3	歴史的建築物の保存と再生・活用についての手法を学ぶ	19																																																	
4	前川國男自邸を生かしたプログラムを考える	20																																																	
5	前川自邸の何を残し、何を新しくするのかを考える	21																																																	
6	空地へ設計する新たな建築と、前川自邸をどのように関係させるかを考える	22																																																	
7	建物の機能性について、2つの建物の調和について、ランドスケープデザイン	23																																																	
8	プレゼンボード作成	24																																																	
9	プレゼンボード作成	25																																																	
10	課題提出、講評	26																																																	
11		27																																																	
12		28																																																	
13		29																																																	
14		30																																																	
15		31																																																	
16		32																																																	
⑰ その他	教科書 教材	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版 著者：日本建築学会編																																																
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060454																																																

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		卒業研究Ⅰ	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	
④ 必修・選択の別		⑤ 時間数	300
⑦ 担当教員(代表)		⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態		⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
テーマ設定、資料収集、リサーチ、構想、計画、制作、検証といった一連の活動に主体的に取り組むことができる。前述の一連の活動を通じ、自分の意見を相手に伝えられるようになる。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や、考察力を確立できる。			
⑬ 授業の概要			
在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。			
⑭ 準備学習・事後学習			
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	オリエンテーション	17	
2	テーマの選定と調査・研究	18	
3	研究経過について口頭発表と質疑応答	19	
4	中間審査 担当教員による個別指導	20	
5	作品パネル・模型作り	21	
6	作品パネル・模型作り	22	
7	作品パネル・模型作り	23	
8	作品パネル・模型作り	24	
9	作品パネル・模型作り	25	
10	課題提出、講評	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書	出版社：
		教材	著者：
		配布資料	
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード
			060440

授業計画（シラバス）

【2026年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名		卒業研究Ⅱ	
② 対象学科		工業専門課程 建築ライセンス本科	③ 履修学年 2
④ 必修・選択の別	選必B	⑤ 時間数 30	⑥ 単位数 2
⑦ 担当教員(代表)	鈴木 樹	⑧ 実務経験	設計実務経験者
⑨ 授業形態	演習	⑩ 授業の実施方法	対面授業
⑪ 評価基準			
提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑫ 授業の目的・目標			
テーマ設定、資料収集、リサーチ、構想、計画、制作、検証といった一連の活動に主体的に取り組むことができる。前述の一連の活動を通じ、自分の意見を相手に伝えられるようになる。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や、考察力を確立できる。			
⑬ 授業の概要			
在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究をとおして卒業設計・論文にまとめる。建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。			
⑭ 準備学習・事後学習			
学習内容について、事前に内容を1時間程度確認しておくこと。毎回、演習内容と同じ自学自習を行うこと。			
⑮ 授業計画			
1	研究経過について口頭発表と質疑応答	17	
2	中間審査、担当教員による個別指導	18	
3	作品パネル・模型作り	19	
4	作品パネル・模型作り	20	
5	作品パネル・模型作り	21	
6	作品パネル・模型作り	22	
7	作品パネル・模型作り	23	
8	作品パネル・模型作り	24	
9	作品パネル・模型作り	25	
10	課題提出、講評	26	
11		27	
12		28	
13		29	
14		30	
15		31	
16		32	
⑰ その他		教科書 教材	配布資料 出版社： 著者：
備考	⑮については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード 060441